

策定年月	令和7年10月
見直し年月	令和 年 月

麦・大豆国産化プラン

産地名：熊谷市奈良地区

（作成主体：株式会社太陽ファーム奈良）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

<現状及び課題>

- ・当該地域で生産された小麦や大麦は、JAを通し実需者へと提供されている。
- ・小麦の生産が主で、大麦の生産は未だ少量である。
- ・小麦「さとのそら」は、現状地域での実需は満たされているが、近隣の離農する米麦農家が今後見込まれるため、農地を集積しつつ、実需者の求める麦の生産量を維持できるようにする。
- ・現在当該地域での生産者の高齢化や、担い手不足が深刻化しており、耕作放棄地や遊休農地が目立つようになってきた。
- ・奈良地区でも小規模の米麦農家の離農が問題となっている。
- ・1経営体当たりの栽培面積が拡大し、個人が所有する従来の小・中型機械では作業に時間が掛かり、経営面積の拡大が進まない。
- ・赤かび病などの被害が発生しており、徹底した防除や対策が必要である。

<課題解決への方針>

- ・JA及び実需者を含めた需要量や規格などの把握。
- ・大規模経営が可能な法人の設立、参入。
- ・JAや大里農林振興センターなどと連携し、徹底した防除策の実施や生産管理が必要。
- ・大型農業機械の導入を促進し、作業の効率化を進める。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

【麦の取扱量の現状と目標】

熊谷市東部（奈良地区含む）の生産量：2,246,922kg

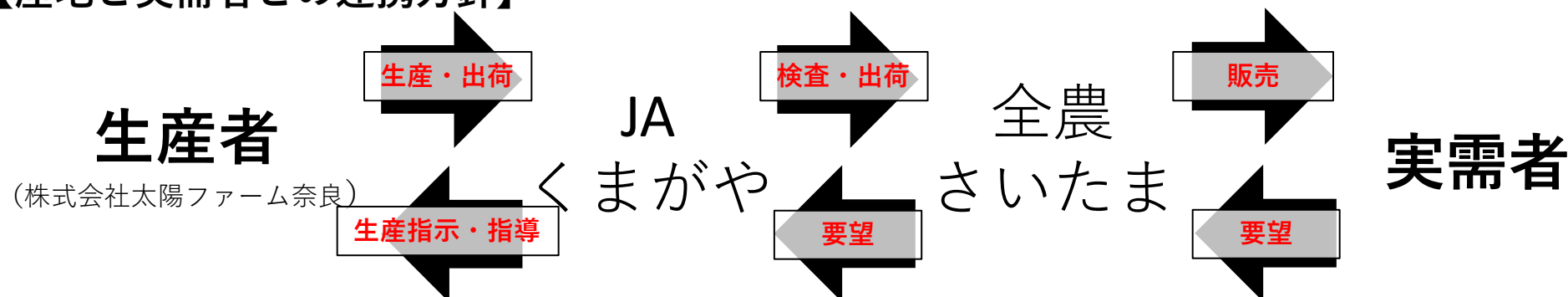
株式会社太陽ファーム奈良の生産量：196,703kg（さとのそら）

令和6年度の実績は生産面積44.42haであった。令和10年度には10%の増加を目指し、48.86haの生産面積、生産量216,373kgを目指す。

太陽ファームが生産するさとのそらについて、現状は地域内の需要を満たしているが、将来的には離農による出荷量減少が見込まれるため、近隣の離農する米麦農家の農地を集積しつつ、実需者の求める麦の生産量を維持できるようにする。

品種	実需者要望	JAくまがや出荷量
さとのそら	5,598,798kg	5,806,917kg（5,571,425kg）
あやひかり	1,124,124kg	1,092,046kg（1,092,046kg）
その他	39,000kg	46,470kg（46,470kg）

【産地と実需者との連携方針】



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

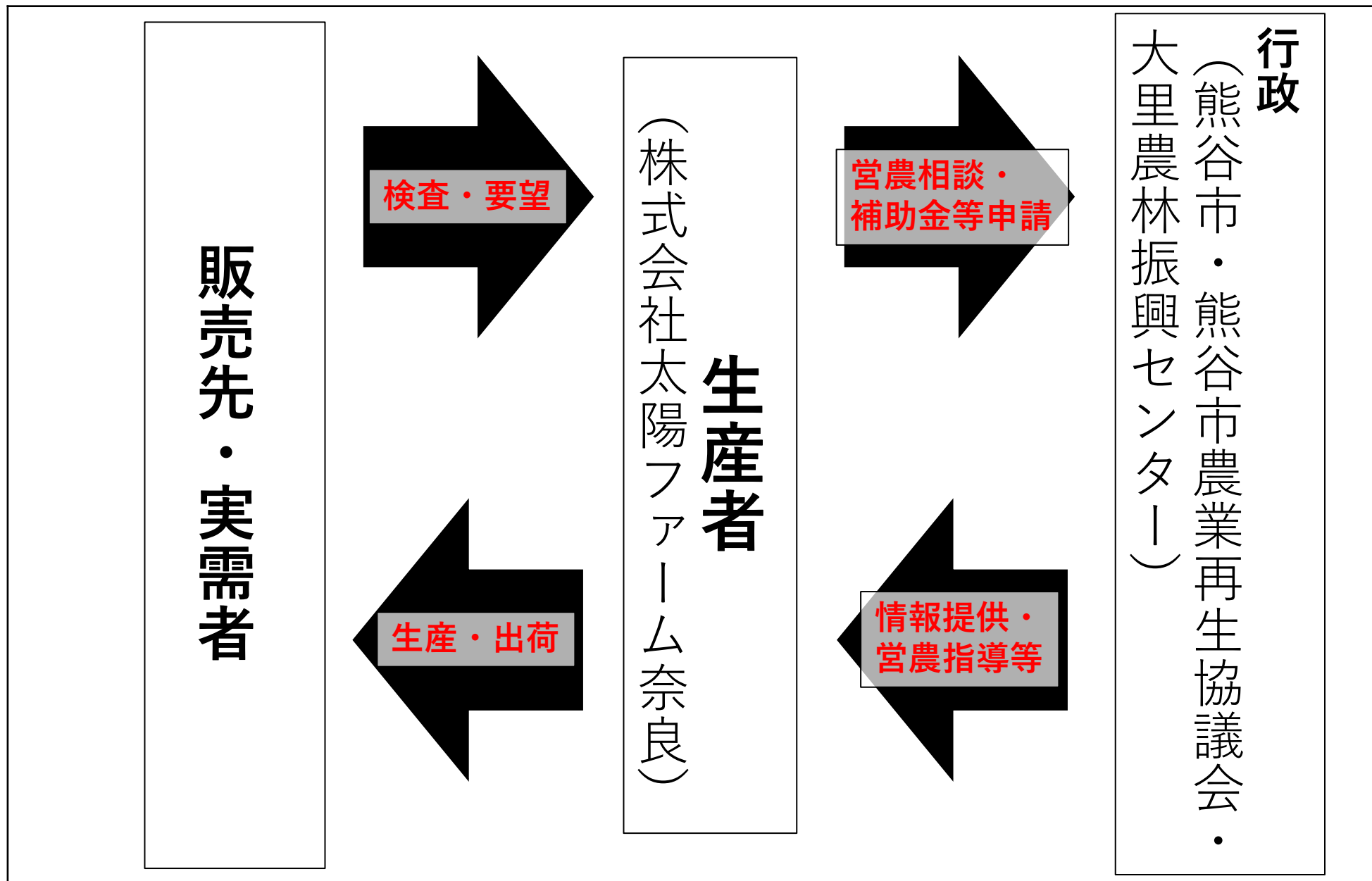
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。